平成３０年度第３回袖ケ浦市郷土博物館協議会

１　開催日時　　平成３１年２月１９日（火）　午前１０時開会

２　開催場所　　郷土博物館　研修室

３　出席委員

委員長	伊藤　誠	委　員	篠原　美智代
副委員長	武田　弘	委　員	高橋　佳代子
委　員	加藤　みどり	委　員	山﨑　剛
委　員	菊池　眞太郎	委　員	唐木　義昭
委　員	岩﨑　照代	委　員	

（欠席委員）

委　員	佐藤　優子		

４　出席職員

教育長	御園　朋夫	副館長	西原　崇浩
教育部参事（兼生涯学習課長）	小阪　潤一郎	主幹	桐村　久美子
館　長	井口　崇	主任主事	大橋　研太

５　傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	５人
傍聴人数	０人

６　議題

（１）博物館協議会委員長・副委員長の選出について

（２）博物館収蔵資料の現状と課題について

（３）平成３０年度郷土博物館事業の成果と課題について

（４）平成３１年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策（案）ならびに平成３１年度事業計画について

（5）その他

7　議事

事務局（西原副館長）　本日は委員が選出されて初めての会議ですので、まだ委員長・副委員長が選出されておりません。仮議長を立てまして、議事を進行したいと思います。仮議長につきましては郷土博物館館長であります井口にお願いしたいと思います。

井口館長　それでは、仮議長ということで、しばらくの間ご協力いただきたいと思います。議題１、博物館協議会の委員長及び副委員長の選出について、事務局から説明をお願いします。

西原副館長　資料にもとづき、説明。

井口館長　今、説明がありましたとおり、委員長及び副委員長は委員の互選により改めるとあります。皆様からご提案があればお受けしたいと思います。ご意見などございませんでしょうか。ご意見がございませんでしたら事務局から提案するということでよろしいですか。

（賛成）

井口館長　では、事務局お願いします。

西原副館長　前期も委員長を務めていただきました伊藤委員を推薦したいと思います。

井口館長　事務局のほうから伊藤委員を委員長にという案がございました。委員長の選出についてお諮りいたします。いかがでございましょうか。

（賛成）

井口館長　ありがとうございます。それでは続きまして、副委員長の選出ですが、これも事務局案ということでよろしいでしょうか。

西原副館長　副委員長につきましては、武田委員を推薦したいと思います。

井口館長　今、副委員長につきましては、武田委員ということで推薦がありました。いかがでしょうか。

（賛成）

井口館長　ありがとうございます。それでは、委員長に伊藤委員、副委員長に武田委員が選出されました。委員長が決定いたしましたので、仮議長を辞し、これ以降の進行を委員長へ引き継がせていただきます。

伊藤委員長　では、議題（２）収蔵資料の現状と課題について、事務局から説明をお願いいたします。

桐村主幹　資料に基づき説明

伊藤委員長　議題（２）収蔵資料の現状と課題について、何か質問ありませんか。

菊池委員　このような整理作業ははじめてという話でしたが。今までこのような報告はなかったなというのを痛切に感じました。いくつかお伺いしたいのですが、なかなか難しいかとは思うのですが、２週間程度の期間で、これだけのことをやられて、なおかつこれだけわかりやすい資料を作るだけでも大変だったと思います。課題の中にもありますけれど、日常管理・作業の継続の難しさ。たぶん収蔵庫の方も満杯状態になっているかと思うのですけれども、今後、収蔵庫をつくるなり、袖ケ浦市で学校の統廃合もある中で空き教室を利用してやるとか、そのようなご予定があるのかうかがいたいのと、やはり、お金と人手というか、予算を獲得していただいて、構造的にできるだけ追いつくような体制にしていただければと思います。それはここだけの問題でなくて、どこの博物館でも抱えている大きな問題があると思うのですけれど、とかく、表側の企画展や体験学習ばかりに目が行って、資料の収集・整理はほとんど表に出ないような状態でやられている苦労がありますから、今回こういう資料ができたということで、報告書等も含めて検討されてはいかがか。

西原副館長　お答えいたします。収集保管は、博物館法でも博物館でしなければいけない業務ということで、明文化されておりますけれども、私たちもそのように資料を収集し、３０年の蓄積で収蔵庫がこのような状態になってきたという経緯がございます。その中で新たな収蔵施設の確保についての話ですけれども、こちらの要望としましては、この近くに給食センターがございまして、新しい施設がガウランドの隣にあるのですけれども、この旧給食センターが使用していない、眠っている施設でありまして、ここは床がフラットでなくて、水を流す関係で傾斜しているのですけれども、ちょっと見た限りでは気になる傾斜ではなかったので、教育委員会としましてはそちらを再利用させてもらいたいと要望を出しているのですが、なかなか意見がまとまっていな

い状況です。相当大きいので、大型民具とか、埋蔵文化財関係とかそこに入れられるようになれば、博物館の収蔵施設も少し余裕ができるかなと思うのですが、まだ結論が出ていません。

お金と人との関係ですが、なかなかこちらも難しい問題で、これは博物館だけでなく教育委員会全体の話になってくるかもしれませんが、人を増やすということも難しいところがございまして、収蔵庫の管理につきましては、これまでは資料を薬剤で燻蒸して被害のもとになる害虫・菌を除去するというやり方が主流だったのですが、現在は日常の清掃等の管理で被害の発生を防ぐというのが主流となっております。これが、人手のかかる仕事で、さらに難しい状況に移行しつつあります。いまいる人と、ある予算の中で対応するしかないというのが現状です。

伊藤委員長　では、議題（２）について、他にないようでしたら、議題（３）平成３０年度郷土博物館事業の成果と課題について、事務局から説明お願いします。

西原副館長　資料に基づき説明。

伊藤委員長　何かご質問はございますか。

唐木委員　１つめは各施設とのつながり、地域との連携・つながりはどうなっているのか。もう１つは公園に隣接しているが、公園は人が必ず来る。公園に来る人を博物館に取り込むといった取り組みは、これまでどのようなことをしてきているのか。２つお尋ねしたい。

西原副館長　まず、２つ目の方ですが、公園に隣接しておりますので、博物館は駅からは来づらいところにあるのですが、この公園があるということで、県外や市外から観光に来られた方が立ち寄ることも結構多いです。それをどうやって引き込んでいるかということでございますけれども、あまり積極的には行っていないのですが、博物館の前に看板を置きまして、散策されている方を引き込むということはしております。それでもかなりの集客があるということは出ています。また、イベントの時に公園に看板を出したり、職員が行って呼び込みをしたりということはします。

それから、地域とのつながりですが、ここは根形地区にあるということで、地域との直接的なつながりは根形ということになるのですけれど、根形小学校・中学校にイベントに出ていただいたりということはあります。先日旧進藤家住宅がリニューアルオープンした時には地元の根形中学校吹奏楽部に出演していただきました。また、今回展示している行屋の資料は、地元下新田の行屋を解体するという連絡をいただき、調査にうかがって資料を寄贈していただいたものです。

桐村主幹　根形公民館とは歩いて５分程度の距離にありますので、参加者の相乗効果を期待して、こちらで何かイベントがあれば根形公民館の催し物のお知らせをしたり、逆に根形公民館で博物館のイベントのチラシを配ってもらったりしています。公園でのＰＲについてはもう少し効果的な方法を検討したいと思います。また、アクアラインなるほど館は、直接公園の遊歩道に面しているので、本館よりも公園に来た人が立ち寄りやすいという利点もあります。

地域とのつながりですが、調査と地域との交流を兼ねて、地元のお祭りへ参加したりもしています。飽富神社の筒粥神事ですとか、最近では下新田八幡神社の節分への参加させていただきました。そのように地元の行事に参加しながら、地域の方と交流し、信頼関係を築いていきたいと考えています。

唐木委員　根形公民館の講座に出ていて気付いたことなんですけど、地域の連携について、地域の行事を講座で、いろいろオンタイムで見せていただいたことがあります。こんな地域にこんな行事があったんだなというのを改めてわかったこともある。博物館としては地域にこういう行事があるというのはつかんでいると思うのですけれども、オンタイムで実際に行事をやっている、それについて博物館は出かけて行ってコラボレーションする、難しいかもしれませんが、オンタイムでの情報発信の仕方、そういうのが地域とのつながり方として必要ではないかなと思います。

もう１つは、せっかく来ていただいた方をどうするかということで、桜を見に来た人が桜を見ていくと、では、博物館で桜に関係するものをやっていたら、じゃあ、博物館も見ていこうとなるのでは、博物館は従来通り来て見てもらうというスタンスだと思うのですけど、桜を見に来た人たちにどういったアプローチをするかというのが、やっぱり必要なのではないのかなという気がします。

井口館長　地域連携のことですが、要望があればシニアクラブに出向いていくアウトリーチもやっています。場合によっては博物館の資料を持って学芸員が出かけ、資料も人材も活用していただいています。

公民館との連携というところでお話ししますと、幸いに、公民館での勤務経験のある職員が多く、比較的に地域に切り込んでいくということに億劫ではない人材が揃っていますので、例えば仕掛けていくのは博物館だけれども、募集して、そこに集まって、出かけていく場になるのは、地域の核である公民館というように役割分担すれば、すそ野はいくらでも広がっていくと思います。あとは、やりくりの話になりますが、図書館や公民館と連携していくことは、より良い博物館の在り方だと承知しておりますので、心がけていきたいと思っています。

伊藤委員長　根形公民館の女性セミナーで博物館学芸員が案内をして、山野貝塚見学などもしています。

武田委員　　友の会の方としましても、根形公民館のねこまろの子どもたちと凧作りをしまして、凧作りが終わったら博物館の見学など、公民館職員と相談して進めている所です。先日の生涯学習推進大会。その時にねこまろの子どもたちが作った凧を展示したということもしています。

伊藤委員　最後の議題、平成３１年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策（案）ならびに平成３１年度事業計画について、説明をお願いします。

西原副館長　資料に基づき説明。

伊藤委員長　大きく変わるのは、山野貝塚を盛り込んだという所ですか。

篠原委員　　山野貝塚の関係で、関心のある方は講演会聞きに行ったりすると思うのですけど、指定への反応とかはどうですか？

西原副館長　　指定された２９年度は、特別展をやっていた頃はそれなりにあったのですけれども、やはり時間とともにその傾向は薄れてきて、先週千葉市の加曾利貝塚でのイベントがあって、篠原議員にも出席していただいて、あそこに比べたら袖ケ浦は取り組みが薄いかなと感じます。そういったところに市民の関心の差が出ていると、率直に反省として感じている所です。

篠原委員　　続けるしかないってことですね。

西原副館長　千葉市に比べたら、取り組みは浅いですけれども、地道に積み重ねて行って、もう少ししたら整備の話が盛り上がってくると思いますので、もう少し活動を広めていけたらと思います。

篠原委員　　私も最初は古いものに関心がなかったですけど、何回か出ているうちにすごく面白くなってきました。
　それから、企画展Ⅱの「おらがの慶応４年」というのは、いろはの会とか関係ないですか？

桐村主幹　　いろはの会でも読まれている「慶応四戊辰年新聞一」はとてもよい史料だと思うので、こちらをメインにした展示を考えています。いろはの会員からも、自分たちの読んだものを使ってもらえたらという話もいただいていますし、自分の方でも協力していただけたらと考えています。いろはの会が読んだものに

ついて、パンフレットに掲載するなど、いろはの会との連携については全面に押し出して行きたいと思っています。いろはの会からも、史料解読への協力について申し出をいただいており、こちらも是非お願いしたいと思っております。

伊藤委員長　山野貝塚の話がありましたけど、神納東区のシニアクラブ、こちらからも２０数人行っていますし、さっき言った根形公民館の女性セミナーも見学に行っています。

西原副館長　昨年度から今年度にかけて生涯学習課のほうで、地元の要望があった時に行ってはいます。それが来年度以降は博物館の方に移行してきます。

武田委員　山野貝塚の関係でも仕事が増えていますが、職員はこの人数で大丈夫ですか。

西原副館長　職員は上限というのが決まっておりますので、足りないとなった場合、どこかで人数調整をして増やしていただくというのはできるんですけれども、職員、定数減というのがうたわれているなかで、増やすというのは難しいところがあるのですが、この先も職員の定年退職もありますので、そこでまた新しい人材を採用して育成ということになりますが、なかなか増やすというのは難しいかもしれません。

井口館長　職員の中にも、再任用だとか、非常勤だとか、いろいろな形がありますが、館の職員だけで対応するのではなくて、それには初期の投資のようなものが必要だとは思いますが、ボランティアのような形で、我々職員にプラスして市民の力をお借りして充実させていきたい。ここだけで完結するものではないですから、そういう動きを仕掛けていく側に博物館がなるというのも必要だと考えます。

伊藤委員長　そういう意味では、特に市民学芸員の協力は大事です。

西原副館長　山野貝塚の関連事業の開催ということで、ボランティアを養成していこうという考えもあります。

小阪参事　山野貝塚については、保存活用計画を策定中です。

伊藤委員長　山野貝塚のシンポジウムを市民会館に見に行きましたが、市内の方より、県外の方が多いですよね。

小阪参事　６：４で市外の人が多いですが、市民の割合は高くなってきています。

伊藤委員長　その他何かございますか。

西原副館長　先日の生涯学習推進大会には加藤委員に出席いただきました。来年度の博物館協議会では、市川市にあります堀之内貝塚視察を考えております。

伊藤委員長　以上で議題の方はすべて終了しました。この後、収蔵庫、企画展の方見学がございます。

閉会

平成３０年度第３回袖ケ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日　時　平成３１年２月１９日（火）
　　辞令交付式終了後
場　所　郷土博物館　研修室

１　開　会

２　議　題

（１）博物館協議会委員長・副委員長の選出について

委 員 長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副委員長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）博物館収蔵資料の現状と課題について

（３）平成３０年度郷土博物館事業の成果と課題について

（４）平成３１年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに
　平成３１年度事業計画について

（５）その他

３　閉　会

閉会後、企画展Ⅱ「くらだし・おひろめ新収蔵資料展」を見学します。

（２）博物館収蔵資料の現状と課題について

① 収蔵庫と収蔵資料の現状

現有の収蔵庫

収蔵庫１　民具（空調なし・夏は除湿器使用。二重壁等により空調なしでも環境が維持できる構造）
収蔵庫２　フィルム・金属の考古資料（２４時間空調管理：温度２０℃・湿度５０％設定）
収蔵庫３　古文書・紙資料（冬季以外は２４時間冷房管理：温度１５℃設定、夏は除湿器使用）
収蔵庫４　考古資料・大型民具（プレハブ・空調なし）
収蔵庫５　考古資料（２階建てプレハブ・空調なし）
収蔵庫６　考古資料（コンテナハウス・空調なし）
他、市史書庫（２４時間冷房管理可能）にも紙資料収蔵
　体験学習室・市史作業室・燻蒸室・荷解室にも民具仮保管

平成３０年１２月時点の現状（収蔵上の問題点）

収蔵庫１は、湿度５５～６５％（夏は除湿器使用）。温度は季節により徐々に変動する。
　通路に物が多く置かれ、あるべき場所に収蔵されていない。
　大型の民具で収蔵スペースがふさがっている。
　未整理品が多く収蔵されている。
収蔵庫２は、空調が頻繁に不具合を起こす。
　スライドファイルの入った大型の箱が多く床に積まれていて通路を塞いでいる。
　発掘調査報告書刊行後の図版など不要なものや、書籍など保管場所が収蔵庫でなくてもよいものが収蔵されている。
　現状湿度４５％前後であるが、適湿５５～６５％の紙資料が収蔵されている。
収蔵庫３は、比較的整理が行き届いていて環境も安定している。
　（温度１２℃程度、湿度５５％前後。夏は除湿器使用）
　ほぼ専属の非常勤職員がいる。
収蔵庫４～６は、温湿度管理もなく、虫・カビの繁殖しやすい環境にある。
体験学習室・市史作業室等、収蔵庫でない場所が収蔵スペース化している。

【参考　資料保護に適した温湿度】

55～65%　紙・木・染織品・漆
50～65%　象牙・皮・羊皮紙・自然史関係の資料
50～55%　油絵
45～55%　化石
45%以下　金属
30%程度　写真フィルム

※温度は資料保護のためだけなら、氷点下にならなければ、低いほど良い。
　展示の場合は、外気±５℃（夏 22～26℃、冬 19～21℃）で、１時間過ごせる温度
　急激な温湿度の変動は厳禁。

② 年末特別休館による館内整理作業の実施

「あるべき場所に、あるべきものを」移動し、清掃・整理。不要なものは処分。
　※期間中、業者委託による燻蒸を実施

整理作業の実際

第１収蔵庫
・大型民具を移動し、奥のスペースを空ける。一部の大型民具は市民サロン等で常設展示。
・棚と収蔵資料を清掃し、薄葉紙を敷いて戻す。

第２収蔵庫
・書籍は図書室に移動し、蔵書登録または処分。
・写真資料は整理のため一旦研修室へ搬出。
・その他収蔵庫になくてもよいものを搬出し、整理・処分。

市史作業室・体験学習室
・仮保管資料を①今季燻蒸　②燻蒸待ち　③体験学習用　④処分　に分類し、それぞれ場所を決めて移動。
・市史作業室は②、体験学習室は③の保管場所とした。

燻蒸室・荷解室
・仮保管していた資料はすべて上記の分類に基づき移動。

整理作業の成果

第１収蔵庫・第２収蔵庫
・収蔵資料をあるべき収蔵場所へ移動し、収蔵可能スペース拡大。
・清掃により虫・カビ被害のリスク減。

体験学習室
・余分な保管資料がなくなり、体験学習室としての機能向上。

市史作業室
・燻蒸待ち資料が保管されているが、以前より大幅に作業スペース拡大。

市民サロン・常設展示
・村のお医者さんコーナー他、収蔵されていた大型民具の展示・活用
・国史跡　山野貝塚展示室　オープン
・企画展Ⅱ「くらだし・おひろめ」での新収蔵資料の展示・公開

③ 課題

・期間中に処理が終わらなかったものが新たに仮保管資料化。
・日常管理、作業の継続の難しさ
・博物館業務の全般的な見直しが必要

特別休館中館内整理　部屋ごとの作業内容と作業日の目安(計画)

移動元・作業場所	主な作業内容	移動先・作業場所	移動・展示等をする資料・備考	担当	市民学芸員が参加できる作業	作業日の目安						
						12月18日（火）	12月19日（水）	12月20日（木）	12月21日（金）	12月25日（火）	12月26日（水）	12月27日（木）
						第1収蔵庫の大型民具移動。15:00～、燻蒸対象資料の移動・集積	燻蒸搬出。他、不在者が多いので、通常の事務を優先	第1収蔵庫奥の清掃・額移動。第2収蔵庫整理	第1収蔵庫清掃、第2収蔵庫整理、図書室整理	第1収蔵庫整理、特展室作業、図書室整理、常設展示作業	燻蒸資料返却。不在者が多いので、通常の事務を優先	第1収蔵庫整理、特展室作業、常設展示作業
第1収蔵庫	①大型民具を移動	常設展示室（市民サロン周辺）	階段箪笥・機織機・お医者さん資料	桐村	○	●						
	②企画展Ⅱ展示資料移動	特別展示室		桐村	○					↔		↔
	③第1収蔵庫　奥の清掃			大橋・光江	○	↔	↔	↔				
	④書画額移動	第1収蔵庫内（奥へ）		光江	○	↔	↔	↔				
	⑤第1収蔵庫　棚清掃			大橋	○			↔	↔	↔	↔	↔
	⑥第1収蔵庫内整理			桐村・大橋	○					↔	↔	↔
第2収蔵庫	①図書・不要物等搬出	図書室	段ボール詰めの書籍（考古系）	古神子・山田	○	●						
	②棚板移動	第2収蔵庫内		大橋	○	↔	↔	↔				
	③スライドファイル箱整理（テプラでタイトル貼り付け）	第2収蔵庫内		加藤・柳平				↔	↔	↔	↔	↔
	④企画展Ⅱ展示資料移動	特別展示室	菱田家資料	桐村	○					↔	↔	↔
	⑤第2収蔵庫内整理			光江								
第3収蔵庫・市史編さん室	通常の整理作業			高木・出口	×	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
市史作業室	①常設展示資料移動	常設展示室	オルガン	桐村	○	●						
	②企画展Ⅱ展示資料移動	特別展示室	菱田家資料	桐村	○					↔	↔	↔
	③燻蒸対象資料移動	燻蒸搬出へ		大橋	○	●						
	④作業室内整理、清掃			光江	○			↔	↔	↔	↔	↔
	⑤不要物抽出、処分			光江								
体験学習室	①収蔵品確認			光江・桐村	○	●						
	②燻蒸対象資料移動	燻蒸搬出へ		大橋	○	●						
	③体験学習室内整理、清掃			古神子・山田	○			↔	↔	↔	↔	↔
	④不要物抽出、処分			桐村								
荷解室	①収蔵品確認			桐村・大橋		●						
	②燻蒸対象資料移動	燻蒸搬出へ		大橋	○	●						
	③荷解室整理、清掃							↔	↔	↔	↔	↔
	④不要物抽出、処分											
燻蒸室	①燻蒸対象資料移動	燻蒸搬出へ	下新田行屋資料	桐村	×	●						
	②燻蒸室整理、清掃			古神子・山田				↔	↔	↔	↔	↔
	③不要物抽出、処分											
図書室	①一部図書の箱詰め、棚上げ	図書室内移動	上総掘り関係ファイル	加藤・柳平		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	②図書の移動	学芸員室	生物関係図書	大橋		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
		そでぱくの森	絵本・児童書	萩原		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	③重複・不要図書の処分		日本の歴史重複分等	西原・桐村								
	④移動してきた図書の整理（仕分け・蔵書手続き）	図書室・事務室	第2収蔵庫からの図書（考古系）	加藤・柳平		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
学芸員室・周辺（廊下・展示倉庫等）	①資料を展示資料として移動	産業展示室	山野貝塚関連資料	西原	○	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	②資料を収蔵庫へ収納	第5収蔵庫	山野貝塚関連資料	西原	○	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	③展示倉庫内整理、清掃			桐村	○	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	④学芸員室図書整理			桐村	○	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	⑤学芸員室不要物抽出、処分			桐村								
常設展示室	①歴史展示室（縄文）展示替え			光江		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
	②産業展示室山野貝塚展示			西原		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
特別展示室	①企画展Ⅰ資料整理・収納			桐村	○					↔	↔	↔
	②企画展Ⅱ展示資料搬入			桐村	○					↔	↔	↔
	③展示台等整理			桐村	○					↔	↔	↔
市民サロン・ロビー等	①絵画撤去	市民サロン		桐村	○	●						
	②上総掘りパネル移動	ロビー		桐村	○	●						
	③お医者さんコーナー設置	市民サロン	駒医院資料	桐村	○	●						
	④オルガン追加・移動	市民サロン	市史作業室から1台追加	桐村	○	●						
	⑤階段箪笥・機織機設置	ロビー等		光江	○	●						
アクアラインなるほど館	①ソデフローラ後のロビー展示（案・パネル展示「縄文の顔」）	なるほど館ロビー	廊下にあるパネル	萩原		●						
	②展示ケース移動	本館	ガラス展示ケース3台	桐村（日通）		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔

資料整理前

収蔵庫１

収蔵庫１

収蔵庫１

収蔵庫１

市史作業室

収蔵庫２

収蔵庫２

資料整理後

収蔵庫１

収蔵庫１

収蔵庫１

収蔵庫１

収蔵庫２

収蔵庫２

市史作業室

議題（３）　平成３０年度郷土博物館事業の成果と課題について

（1/31現在）

No.	事業名	事業概要と主な取り組み	時期・回数	参加対象者・人数・件数等
1	展示更新推進事業	**★常設展** 本館では映像・歴史・民俗・昭和のくらし・上総掘り各室の展示及び情報提供によって、袖ケ浦市のくらしの移り変わりなどを理解しやすいものとした。アクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の屋外展示施設の有効活用を図っている。 また、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展・ロビー展等を行い、常設展では、歴史展示室の弥生時代の一部及び縄文時代コーナーの展示替えを行った。 **※本館・なるほど館入館者は、前年度比で増加している。旧進藤家住宅では改修工事により閉館となっていたため、参考入館者数として捉えることとする。** **７・８月の猛暑時の入館者が前年度比では減少したが、９～11月は本館・なるほど館の入館者が増加している。旧進藤家住宅のリニューアルオープンした影響と分析している。**	1月31日現在入館者数 (　　)内は平成29年1月31日の実績	
			本　　館	29,212人 (27,577人)
			なるほど館	10,649人 (9,910人)
			旧進藤家住宅	7,960人 (9,477人)
			合　計	**47,821人** **(46,964人)**
		●事業目標　　本館入館者数　　33,000人以上 平成29年度入館者数実績(本館34,460人・なるほど館12,501人・旧進藤家住宅9,477人（８月末まで）　３館合計56,438人)	実績値	**29,212人**
		★企画展		
		特別展『山野貝塚のヒミツを探る』 （平成29年度継続事業　2/10～6/3　17,538人）	4月1日～6月3日	11,170人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！　石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』	8月4日～10月14日	6,265人
		リクエスト企画『企画展Ⅰ続編　ウラ見せ！－石井更幸コレクションの裏側・内側見せちゃいますー』	10月27日～11月25日	3,254人
		企画展Ⅱ『くらだし・おひろめ－新収蔵資料展－』	2月2日～3月24日	
		●事業目標　企画展・特別展入館者数　21,000人以上	実績値	**20,689人**
		企画展・特別展の開催　年2回以上		**４回**
		★アクアラインなるほど館ロビー展		
		『日本貝塚紀行』 （平成29年度継続事業　2/10～6/3　4,924人）	4月1日～6月3日	2,553人
		『世界の橋』	6月19日～7月22日	610人
		『どくどく毒生物展』	8月4日～9月16日	2,225人
		『昭和・平成を築いてきたエチレンプラントー住友化学の産業技術－』	7月23日～8月21日	1,334人
		『植物画展　ソデフローラⅥ』市民学芸員葉月の会	10月29日～12月23日	1,433人
		『にっぽんの郷土凧』　博物館友の会 凧の会	1月9日～2月3日	849人
		『企画展Ⅱ　くらだし・おひろめ－新収蔵資料展－関連　　思い出のアルバム』	2月6日～3月12日	
		●事業目標　アクアラインなるほど館等　ロビー展示展開催　年6回以上	実績値	**7回**
		■課題 **企画展やロビー展を定期的に開催することにより、入館者は増加するが、調査研究不足や職員への負担が大きい。**		
2	地域資料管理活用事業	館蔵史料（古文書等）の台帳作成及び整理や閲覧対応（デジタル公図を含む)を行っている。また、収蔵環境の整備にも努め、今年度は12月に特別休館日を設け、収蔵庫の資料整理を行った。博物館の収集・収蔵資料を整理・情報化し、利用者に提供するとともに、博物館活動を広くPRするためホームページを活用しこまめな更新による情報発信を行っている。『袖ケ浦市史研究』第19号を刊行した。	通　年	
		●事業目標　　ホームページのアクセス件数　　5,000件/年	実績値	9,100件 1月7日現在
		館蔵資料データベース作成　　1,500件/年		1,500件/年
		館蔵史料の保存・修復を行う。		1件（奈良輪漁港資料）
		■課題 **収蔵資料の管理が不十分であった。日常の収蔵庫の管理不足により、シロアリ被害の把握が遅れた。**		
3	博学連携事業	博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図る。体験学習等への市民学芸員(ボランティア)の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能している。	通　年	
		校外学習支援　（事業目標　年15校）		18校1,344人 (14校1,175人)
		アウトリーチ活動(出前展示・出前授業)　（事業目標　年3件）		6件457人 (5件388人)
		学習相談		7件 (15件)
		職場体験(市内中学2年生)		2校4人 (4校11人)
		実物資料貸し出し		７校69点 (7校69点)
		図書貸し出し(物流システム利用、ビデオも含む)		2件14点 (8件25冊)
		博物館実習生受入		2校2人 (3校3人)

		■課題 **物流システムの利用が活性化していないため、利用促進について検討する。学校への資料や図書の貸し出しも減少しており、学校との連携が浅くなっている傾向が窺える。**		
4	**調査研究事業**	地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査とともに企画展に関する調査を行う。 また、第３次展示構想展の基本調査項目に基づいて、今後の博物館活動の基本となる調査項目を計画的に調査している。 ・山野貝塚に関する調査 ・袖ケ浦市内の生物に関する調査 ・中世荘園に関する調査	通　年	
		■課題 **職員の多忙化により、調査研究のための時間の確保が難しい。**		
5	**教育普及事業**	**★博物館講座「袖ケ浦学」** 講座として6回開催。歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ケ浦」に迫る講座内容とした。	年６回	一　般
		(146回)友の会共催『どうして遺跡ができるのか？　－貝塚を作るわけ－』（講師　堀越正行 氏）	4月23日(土)	42人
		(147回)『袖ケ浦の漁業　－海とのつながり－』(講師　尾上　一明 氏)	6月11日(土)	31人
		(148回)『地図製作へのこだわり－峰庫治の世界』（講師　若菜　三郎氏）	8月20日(土)	25人
		(149回)『館長とめぐる！久留里往還』（講師　井口　崇館長）	11月20日(日)	16人
		(150回)『映画“人間と鉄道”について』(講師　大石和太郎氏)	2月10日(日)	47人
		(151回)『室町時代の袖ケ浦』(講師　桐村久美子主幹)	3月2日(土)	0人
		★ミュージアム・フェステバル 6月2日（土）・3日（日）の両日にわたり、世代を越えた市民各層のふれあいの場とするため、各種教育普及関連事業を行い、ミュージアムフェスティバルを開催しました。 ミュージアムコンサート・貝輪づくり・アンギン織り体験・古代の匠に挑戦・上総掘り体験等の各種イベントを開催し、友の会展示コーナー・模擬店なども運営し、袖ヶ浦高校の吹奏楽部、木更津高校のジャグリング部の出演などにより盛り上がりました。	6月2日(土) ～6月3日(日)	4,198人人 (3,221人)
		★自然と歴史の散策会 県内外の史跡・博物館等を見学し、歴史に親しむとともに市民の交流の場として、事業を展開している。	年２回	
		第1回　東京都美術館、寛永寺	6月16日(土)	39人
		第2回　飯高寺、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館	11月27日(火)	14人
		★フィールド・アドベンチャー 次代を担う子供たちに、ふるさと袖ケ浦の自然を通して自然の一部である私たちの存在を認識し、未来を考える機会を提供している。	年３回	青少年～一般
		第1回　初夏の植物散策会～埋立地に生きる緑を巡る～（旧千葉県環境緑化センター）	5月26日(土)	9人
		第2回　しいのもりホタル観察会～環境保全の取り組みを学ぼう！～（椎の森自然環境保全緑地　しいのもり）	6月18日(日)	26人
		第3回　冬の野鳥観察　～上池の鳥たち～　（袖ケ浦公園上池周辺）	2月17日(日)	
		★アウトリーチ活動(公民館・博物館での出前講座等)	通　年	
		ちはら台コミュニティセンター　ちはら台学歴史講座「山野貝塚から縄文時代の貝塚を探る」	5月12日(土)	42人
		神納東シニアクラブ「山野貝塚ウォーキング」	6月8日(金)	28人
		日本弘道会　「山野貝塚について」	6月10日(日)	21人
		根形公民館ねこまろナイトミュージアム　「夜の郷土博物館の見学、古代住居でしじみ汁作り等」	8月25日(土)	46人
		平岡公民会館　ひらおかシニアセミナー「平岡地区の文化財を訪ねてみよう！」	11月20日(火)	9人
		根形公民館　女性セミナー　「郷土博物館で山野貝塚について概要説明、その後徒歩にて山野貝塚現地見学」	11月30日(金)	18人
		袖ケ浦市民会館　こどもチャレンジ教室　古文書教室「百人一首にチャレンジしよう！」	12月15日(土)	30人
		★その他各種普及事業 市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催している。	通　年	
		特別展『山野貝塚のヒミツを探る』関連イベント　展示解説会（第３回）	4月15日(土)	11人
		特別展『山野貝塚のヒミツを探る』関連イベント　貝塚めぐりバスツアー（特別史跡加曽利貝塚（千葉市）、国史跡堀之内貝塚（市川市）などの見学）	4月21日(土)	24人
		かずさの国　凧あげフェスタ（海浜公園）	5月4日（金・祝）	850人
		こどもの日イベント　「市民学芸員と遊ぼう！」（市民学芸員主催）	5月5日（木・祝）	597人
		特別展『山野貝塚のヒミツを探る』関連イベント　展示解説会（第４回）（ミュージアム・フィスティバル）	6月2日(土)	8人
		特別展『山野貝塚のヒミツを探る』関連イベント　展示解説会（第５回）（ミュージアム・フィスティバル）	6月3日(日)	12人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　内覧会	8月3日(金)	21人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』関連イベント　展示解説会（第１回）	8月11日(土)	24人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　移動講座　①昔の避暑地をめぐる夏のバスツアー	8月12日(日)	24人
		アクアラインなるほど館ロビー展『どくどく毒生物展』関連ワークショップ紙で作っちゃう毒生物！	8月18日(土)	80人

		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　石井更幸さんとH0ゲージを走らせよう！（第１回）	8月19日(日)	74人
		旧進藤家住宅リニューアルイベント	9月1日(土)	260人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　展示解説会（第２回）	9月1日(土)	20人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　石井更幸さんとH0ゲージを走らせよう！（第２回）	9月16日(日)	94人
		市民学芸員主催イベント『十五夜コンサート　～月へ届け、音の贈り物～』 出演：石橋健彦氏（ギター弾き語り）、オカリナサークル「カナリアンズ」	9月22日(土)	320人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　移動講座　②古地図を持って出かけよう！	9月23日(日・祝)	26人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　石井更幸さんとH0ゲージを走らせよう！（第３回）	10月7日(日)	104人
		企画展Ⅰ『地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光』　関連イベント　展示解説会（第３回）	10月13日(土)	18人
		平成30年度企画展Ⅰ　地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光　関連イベント　第148回袖ケ浦学　「地図製作へのこだわりー峰庫治の世界ー」	11月23日(金・祝)	25人
		アクアラインなるほど館ロビー展　植物画展　ソデフローラⅥ　関連イベント　植物画展体験講座「植物画を描こう」	11月24日(土)	13人
		市民学芸員が教える正月飾り作り体験会	12月22日(土)	35人
		アクアラインなるほど館ロビー展『にっぽんの郷土凧』　関連イベント　新春凧揚げ会（海浜公園）	1月6日(日)	65人
		アクアラインなるほど館ロビー展『にっぽんの郷土凧』　関連イベント　ミニ和凧づくり教室	1月20日(日)	85人
		企画展Ⅱ『くらだし・おひろめ－新収蔵資料展－』　関連イベント　市民学芸員向け展示解説会	2月3日(日)	18人 うち一般7人
		秘書広報課主催事業　市内施設見学バスツアー協力　（旧進藤家住宅にて、石臼できな粉作りと餅焼き体験）	2月8日(金)	10人
		★友の会活動への支援 6グループ(凧の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会、古文書いろはの会、盆栽愛好会)が自主的に活動している。 会報臨時号及び会報44・45号を発行。 自主活動のほかに館との共催でロビー展示・自然と歴史の散策会を実施している。ミュージアム・フェスティバルにも積極的に協力した。	通　年	会員69人
		★上総掘り技術伝承研究会の活動支援 博物館敷地内の足場で掘削、樋挿入のための樋づくり、竹ヒゴづくりなど実施。ミュージアム・フェスティバルに参加しました。	通年 （毎週日曜日活動）	会員14人
		■課題 **今年度は、企画展の開催等の関係で夏休みへ対応した講座や事業を開催できなかった。**		
6	市民学芸員協働事業	きめ細かな博物館活動（サービス）の展開を目指し、ボランティア活動による新たな学びの場を提供するとともに、市民相互交流を促すことを目的として活動を展開している。 自主企画展の企画・運営、ミュージアム・フェスティバル、博学連携事業、万葉植物園手入れ、資料管理支援等で活躍している。 博物館では、新たな事業展開と意識向上のため、育成講座の開催とフォローアップ研修を行った。	通　年	34人
		■課題 **市民学芸員の高齢化が進んたことと、新たな人材が確保が難しい。事業へ参加する人員が固定化されてきた。**		
7	旧進藤家茅葺屋根改修事業	旧進藤家住宅は、平成３年の移築後26年が経過し、茅葺屋根等に傷みが生じているため、茅葺屋根を葺き替え、外構部分を修復し、市民の共有財産である旧進藤家住宅を今後も永く維持・保存できるようした。	平成29年9月～平成30年8月 （2か年継続事業）	
		■課題 **リニューアルした旧進藤家住宅において新たな事業を検討するなど、さらなる活用を図っていくともに、後世まで適切に保存していく。**		
8	郷土博物館改修工事	博物館外壁、屋根及び電気設備等の劣化に認められる。空調機器は、劣化により温度・湿度が資料の保存に適した環境に設定することができない状況であることから、施設の安全性・利便性を考慮し、改修計画を検討した。	通年	
		■課題 **改修内容の優先度を把握し、効率的な改修工事を進めるように庁内で調整をはかる。改修工事を踏まえた中長期的な施設の在り方も検討しなければならない。**		
9	施設管理事業	博物館施設として恒常的に適正な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理(修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等)を行った。 博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月1回の安全点検と消防署の協力を得て、消火訓練を実施した。	通　年	
10	博物館協議会	博物館の運営全般に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画運営について審議を行った。 第１回　7月3日(火)　郷土博物館の使命と評価について　ほか 第２回　11月20日(火)　博物館資料を活用した体験学習の現状について 第３回　2月19日(火)　平成30年度郷土博物館経営方針及び重点施策(案)について　ほか	通　年	委員10人

議題（４）

平成３１年度　袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策（案）

１．経営方針

第２期教育ビジョンの目標である「明日を拓く　心豊かな　たくましい　人づくり」の実現に向け、学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図るとともに、郷土の歴史と文化の保存・継承に努めます。

そのため、郷土博物館は、平成２４年度に策定した「袖ケ浦市郷土博物館の使命」を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（史料・資料等）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進して参ります。

そして、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

２．重点施策

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資（史）料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。

また、地域資（史）料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広く PR し博物館利用の促進を図ります。

調査研究

・山野貝塚に関する調査

・袖ケ浦市内の生物に関する調査

・中世荘園に関する調査

地域資料管理活用事業の展開

・地域資（史）料の調査収集及び活用

・収蔵保管資料の適正な管理

・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）

・ホームページによる情報発信
・古文書等表題データベース作成
・『市史研究第 20 号』原稿募集

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民のニーズに応じた常設展示を部分的に更新するとともに、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民の生涯学習の拠点とするとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。

また、博学連携事業の更なる充実を図るとともに、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、市民の博物館活動の参画を促すために、市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

①展示更新推進事業の展開

・企画展３回(事業の目標値　入館者数 21,000 人以上)
　ⅰ　企画展Ⅰ「袖ケ浦を流れる川とくらし（仮)」
　ⅱ　企画展Ⅱ「幕末維新の西上総－おらがの慶応４年－」
　ⅲ　企画展Ⅲ「出土遺物巡回展（タイトル未定)」千葉県教育振興財団共催
・常設展示の部分更新（近現代）
・旧進藤家住宅での各種展示
・アクアラインなるほど館での各種展示
・展示施設の活用を充実するためのワークショップ(体験型講座)の開催

②教育普及事業の推進　　（事業の目標値：協働事業の実施回数　年５回）

・山野貝塚関連事業の開催
　ⅰ　初歩縄文講座（仮）
　ⅱ　山野貝塚現地説明会
・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会との協働によるミュージムフェスティバルの開催
・フィールドアドベンチャーの開催
・博物館講座「袖ケ浦学」の開催
・友の会との共催による自然と歴史の散策会

③博学連携事業の拡充

・校外学習支援(市内・市外)　　・資料の貸出・学習相談
・教員対象研修の実施　・学校向けワークシートの作成
・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業)
（事業の目標値：アウトリーチ　実施回数　年３件）
・山野貝塚体験型プログラム作成（中学生版）

④みんなにやさしい事業の推進

・高齢者施設との連携（博福連携）
・多言語対応の推進
・ハンズオンの充実

⑤市民学芸員の養成と支援

・市民学芸員の新規募集
・市民学芸員養成講座及びフォローアップ研修の実施
・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援
・市民学芸員『どんぐりの会』会報（どんぐり便り）の発行
・地域史掘り起こし研究への支援
・グループ活動の支援

⑥上総掘り技術伝承研究会活動の支援

・活動場所の確保　・資材調達　・活動 PR　・補助金申請等の活動援助

⑦郷土博物館友の会活動の支援

・『友の会だより 46・47 号』の発行
・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会）への支援
・友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援
・凧の会が参加する「かずさの国　凧あげフェスタ」への協力

⑧幼児期からの博物館体験

・そではくのもりでの親子での体験活動

(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、施設の管理計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設を提供します。

施設管理事業

・安全点検の実施(月１回)　　・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施

・ＩＰＭ（総合的病害虫管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
・維持管理及び修繕による安全確保

(4)博物館としての独自性を追求します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、ＮＰＯ等との交流・連携をより強化するとともに、袖ケ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

① 周辺施設との連携

・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示）
・袖ケ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。
・千葉県博図公連携事業への協力

②郷土博物館実習生の受入

・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第１条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

③各博物館協会協議会等への参加

・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

④博物館周辺の景観整備

・緑地管理　　・万葉植物園等屋外附属施設管理
・公園管理組合との共通認識をもった管理

⑤国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。